鹿児島県小中学校長研究大会　分科会記録

○　日　時　令和６年11月15日（金）12:30～13:50

○　分科会Ⅰ　小学校　第１分科会

「学校経営」

○　研究主題

「『生きる力』を育む活力ある学校づくりを目指す校長の経営理念と方策」

○　協議題

「各学校で取り組んでいる教育実践を持続可能なものにしていくためには，校長として人・環境資源等をどのように生かしていけばよいのか，そのためにどのようなことが大切か。」

○　発表者　いちき串木野市立川上小学校　牧　健一

○　司会者　いちき串木野立串木野小学校　牧之瀬 陽一

○　記録者　いちき串木野市立生福小学校 徳永 寛隆

【質疑応答】

（質問：隈之城小　久木田　剛）

・　特認生は，どこから，どうやって通学しているのか。また，特認生の保護者は学校に何を期待しているのか。

（応答：川上小　牧　健一）

・　特認生は，串木野小学校区や市来小学校区から全員，市の特認生用のバスを利用して通学している。

・　特認生の保護者からは，「川上小の児童はとても優秀だからどんな教育をしているのか興味があった。」，児童からは，「川上小ならではのことをやってみたい。」などの声を聞いている。

（質問：平佐東小　今屋　厚造）

・　特認校について，何か広報活動の工夫をしているか。

（応答：川上小　牧　健一）

・　令和５年度から市の特認校制度が変更され，市来小学校区しか許可されないことになったため，現在は，特に広報活動はしていない。

・　子どもを川上小に通わせている高校の同級生がいるなど，保護者の口コミで学校のよさが広がっているようである。

【グループ討議後の班ごとの発表】

（E班：福平小　藤﨑　隆博））

・　特認校を持続させていくための取組や課題について話を進めた。

・　極小規模校においては，人材が不足することをどのようにカバーしていくか，手段としてどうやっていけば効率的かなどが課題となっている。

・　紙媒体で配布していたものをインスタに載せて分かりやすく保護者に伝えるなど工夫している学校があった。

・　複式学級のある学校間で遠隔授業などを取り入れ，人的資源を確保して，持続可能な形で進めていくしかないという意見があった。

・　PTA 組織では，会長を中心に動きやすいように役員が決まることが多いが，会長が替わると後継が育たないという課題が見られる。保護者がやりたい専門部を選んで所属する方式をとることで後任が育ってきているという学校があった。

（G班：檍小　奥　貴浩）

・　各学校の活動について情報交換を行ったが，職員同士の同僚性を高めていくことが課題として挙げられた。

・　同僚性を高めていくために，校内研修ではベテランと若手がチームを組んで研究授業を行っている学校があり，職員の関係性づくりが大切だという意見があった。

・　子ども同士で教え合ったり環境づくりを工夫したりしている点が参考になった。

・　職員及び子どもについて，人とのつながりを大切にした活動をしていくことが持続可能な取組のベースにつながっていくのではないということが話題になった。

・　実践発表で紹介された取組のように，いろいろな活動を最適化し，見直していることなど見習っていきたいという意見があった。

（記録　生福小　徳永　寛隆）

鹿児島県小中学校長研究大会　分科会記録

○　日　時　令和６年11月15日（金）14:15～15:55

○　分科会Ⅱ　小学校　第１分科会

「学校経営」

○　研究主題

「『生きる力』を育む活力ある学校づくりを目指す校長の経営理念と方策」

○　協議題

「学校評価の在り方と評価を生かした学校経営の改善」

○　発表者　薩摩川内市立平佐西小学校　新田　賢一

○　司会者　薩摩川内市立峰山小学校　青﨑　幸一

○　記録者　薩摩川内市立永利小学校　牧本　佳代子

【質疑応答】

（質問：吉松小　坂本　敬）

・　企画委員会の廃止でのメリット、デメリットは。

・　特別支援学級担任の交流学級への参画の仕方は。

（応答：平佐西小　新田　賢一）

・　メリットとして放課後の時間確保ができた。起案された提案を教務主任、学年主任が見ることで学年会で話題にしている。ミドルリーダー育成にもつながっている。今のところトラブルはない。

・　通常学級の支援や給食指導の手伝いをしている。また、今後、業務の分担等を行い、全体で取り組む体制を整える。

【グループ討議後の班ごとの発表】

（A班：南方小　今村　靖）

・　校長、教頭、教務だけでなく分担して見てもらうことで目的意識をもち、結果が共有できる。

・　衛生委員会での意見は、何を目的としているかはっきりさせる。

・　先生方自身に主体的に考えさせる。年何回行うか、還元をいつするかも大事となる。

（J班：吉松小　坂本　敬）

・　アンケート項目の数や内容を見直し、無回答をなくす。目的をはっきりとする。

・　グランドデザインとの整合性を図る。

・　デジタルツールの活用を図る。

・　子供の姿から評価してもらう。（運営協議会等）

【指導助言】

県教育庁義務教育課企画調査係主任指導主事兼係長

前　保廣

〈２校の実践発表について〉

○　いちき串木野市立川上小学校

・　グランドデザインの改訂としてそれぞれの立場で達成できるように指標が示されている。

・　ウェルビーイングの向上を目指した内容となっている。

・　学校、家庭、地域が一体となった活動となっており、持続可能な活動への工夫が見られる。

○　薩摩川内市立平佐西小学校

・　小中共通の評価項目であることから連携が図りやすい。また、人事評価記録書に反映させ、中間評価を行っている点はよい。

・　保護や地域に丁寧な回答を行い、改善点も示している。

・　校内研修や不登校への対策に改善が見られ、目的が達成されている。

○　２校から

・　校長のビジョンが共有され、子供たちの「生きる力」を育む点から参考となることが多い。

〈指導〉

・　ウェルビーングとは身体的・精神的・社会的幸福のことであり、到達モデルを示す。

・　第４期教育振興基本計画に示されている環境モデルを参考に各学校が実態に応じて取り組む。

・　子供たちには、認知的スキルと非認知的スキルアップをねらう。学びに没頭し、情熱を注げるよう、成長を支える。

・　子供たちの幸せは、人々との交流で得られるものが多い。地域を巻き込んで、校長のリーダーシップのもと意図的に進めていく。

（記録　永利小　牧本　佳代子）